

# 新春を迎えて



社会福祉法人  
鹿児島県社会福祉協議会  
会長 布袋嘉之



明けましておめでとございます。皆様におかれましては、すこやかに令和4年の新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

地域経済や医療現場をはじめ、生活全体に甚大な影響を与えている新型コロナウイルス感染症については、ワクチン接種の進展や感染者の減少など、少しずつ明るい兆しが見えつつあるものの、発生から2年が経過した現在も収束の見通しが立たない状況が続いています。

これから、日常生活を取り戻すことは容易ではありませんが、引き続き感染防止対策の徹底と生活再建に向けた取り組みを両立させていくことが肝要であると考えています。

こうした中、社会福祉協議会においては、新型コロナウイルス感染症の影響により収入が減少し、

生活に困窮する方に必要な生活費用等の貸付を行う、生活福祉資金特例貸付事業を実施し、これまでに本県で延べ三万件を超える申請に対応しているところです。

また、各地域においては、外出の自粛による高齢者等の孤立や地域のつながりの希薄化などの課題に対応するため、アイデアや工夫を凝らした様々な福祉実践活動が取り組まれています。

誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある地域共生社会を実現するため、関係機関・団体と連携・協働しながら地域福祉活動の推進や不足する福祉人材の養成・確保等、様々な課題に向け、積極的に取り組んでまいりたいと存じますので、皆様方のさらなるお力添えをお願いいたします。

新しい年が、皆様にとって、より良き年であることを祈念いたしまして、年頭のご挨拶といたします。

## あなたのまちのアクティブシニア

### 「かのやおもちや病院」(鹿屋市)



「かのやおもちや病院」は子どもたちの大切な宝物である「おもちゃ」の治療(修理)活動を通じて、子どもたちに「もの」の大切さを伝えるとともに、シニア世代のボランティア活動の場として社会参加を促し、生きがいづくり子どもたちとの世代間交流を目的として平成21年3月に設立され、現在、ドクター等14名で活動しています。

毎月第1土曜日の午前中、鹿屋市社会福祉協議会内で開院しており、当日に持参されたおもちゃをメインに治療をしています。

お母さん等に付き添われた子どもさんが、心配そうに壊れたおもちゃを持てきます。

受付では、ドクターが、おもちゃを手に取り「どこが壊れているの?」「これは、どつやつて遊ぶの?」「子どもさんに問診し、カルテに書き込んでいきます。



<代表者> 安田 修  
<連絡先>  
鹿屋市社会福祉協議会内  
☎ 0994-44-2277

問診の済んだおもちゃは、ドクターたちが不明な点は互いに意見交換しながら、治療にあたりま。

困った顔をして来院した子どもの顔が、治療が済み、にこりこりする瞬間に出会つてやりがいを感じます。

また、定例日以外にも、鹿屋市文化祭等の各種イベントでの開院や「夏休み親子工作教室」の開催など、色々な機会をこころ積極的に活動しています。

設立から11年が経過した今では、鹿屋市民だけでなく、南大隅町や錦江町から持参される方もあり、年間100件を超える治療依頼に対応しています。

これからも、子どもたちの笑顔のため、技術の向上に努め、しゅしゅ・おおさき・垂水のおもちや病院とも連携しながら活動を継続してまいります。

このコーナーではすこやか長寿社会運動を实践され、いきいきと社会参加されている団体・個人を紹介しています。